

水産業の振興に関する基本的な計画(第Ⅲ期)による 令和6年度の施策実施状況等について

農 林 水 産 委 員 会 報 告 資 料
令 和 7 年 8 月 2 1 日
水 産 林 政 部

1 趣 旨

みやぎ海とさかなの県民条例（平成15年3月20日公布）第11条の規定に基づき、令和6年度の「水産業の振興に関する基本的な計画（第Ⅲ期）」における施策の実施状況等について、議会に報告するとともに県民に公表するに当たり、概要を報告するもの。

2 政策推進の基本方向

（1）持続的で収益性が高く、創造的な漁業・養殖生産体制の確立

- 施策1 操業コストの削減と労働環境の改善
- 施策2 資源の有効活用など収益性の高い漁業への転換
- 施策3 収益性が高く環境負荷の少ない養殖生産への転換

（2）社会・経済環境の変化に対応できる流通・加工業の体制構築と水産物の販売力強化

- 施策4 水産加工業者等の経営安定化
- 施策5 国内・海外への積極的な販路の開拓
- 施策6 地域で稼ぐ力の強化
- 施策7 水産都市の活力強化

（3）将来にわたって持続する活力ある漁業地域とそれを支える人づくり

- 施策8 防災機能の強化と新たな視点での漁港等の利活用
- 施策9 自然環境や地域資源を活かした漁村地域の活性化
- 施策10 新規就業者・担い手の確保・育成、地域をけん引するリーダーの育成、地域における女性の活躍
- 施策11 持続可能な強い経営体への移行と経営の高度化

（4）海の豊かさを守り支える資源管理と漁場・水域環境保全の推進

- 施策12 生産力の高い漁場の整備や水域環境の保全
- 施策13 先端技術等を活用した資源管理の高度化と資源の造成
- 施策14 ブルーカーボンによる CO₂ 吸収や海洋プラスチックごみ対策等、海洋環境の保全に寄与する取組の推進

3 重点プロジェクト

- （1）スマート水産業推進プロジェクト
- （2）水産物輸出促進プロジェクト
- （3）新しい漁村地域創出プロジェクト
- （4）ブルーカーボン推進プロジェクト
- （5）試験研究推進プロジェクト

4 報告・公表のスケジュール

議会への報告：9月定例会に提出予定

県民への公表：令和7年10月上旬に県ホームページに掲載予定

本県の水産業を巡る主な話題

海洋環境の変化と水揚げ量の減少

地球温暖化により地球全体の気温・海水温が上昇していることに加え、黒潮続流からの暖水波及や親潮の北偏など海流の変化が影響し、本県沿岸域を含む海洋環境は大きく変化している。このことにより、冷水性の魚種が減少し暖水性の魚種が増加するなど、本県の産地魚市場に水揚げされる魚種に変化が生じているほか、カキやホヤ、ホタテガイなど主要養殖生産物の生育不良・へい死の発生や、沿岸域における磯焼けの進行等により、水揚量は総じて減少傾向にある。

原油価格・物価高騰、加工原料の入手難

近年、国際情勢の不安定化や円安等の影響から、エネルギーや原料等の価格が上昇しており、本県水産業においても、燃油や飼料価格、電気料金等の高騰・高止まりによる影響を大きく受け、経営コストは増加している。また、産地魚市場の水揚量減少や魚価高、海外における水産物需要の拡大による「買い負け」などにより、水産加工原料の入手が困難になってきている。

第30回全国青年・女性漁業者交流大会で「水産庁長官賞」を受賞

「漁村地域の活性化」を目指すため、漁協青年部や女性部等が主軸となり、本県水産業普及指導員との連携のもと、県内沿岸各地域において、独自の活動が活発に展開されている。

「宮城県青年・女性漁業者交流大会」は、こうした活動の成果を発表する場であり、令和6年9月に開催された大会では、青年の部・女性の部からそれぞれ1団体が出場し、ともに最優秀賞である宮城県知事賞を受賞した。

これにより県代表となった両団体は、翌年3月に開催された「第30回全国青年・女性漁業者交流大会」に出場し、全国から選りすぐられた活動の中から、ともに全国第2位に相当する水産庁長官賞を受賞するという快挙を成し遂げた。



宮城県漁協谷川支所青年部の皆さん



たみこの海バック代表 阿部さん

宮城県の水産業における主な動向①（海面漁業・養殖業）

漁業生産量及び漁業産出額

- 令和6年における宮城県の海面漁業・養殖業
 - 生産量は26万9千トン（対前年比97.6%）：全国第3位
 - 産出額は888億円（対前年比96.3%）：全国第4位



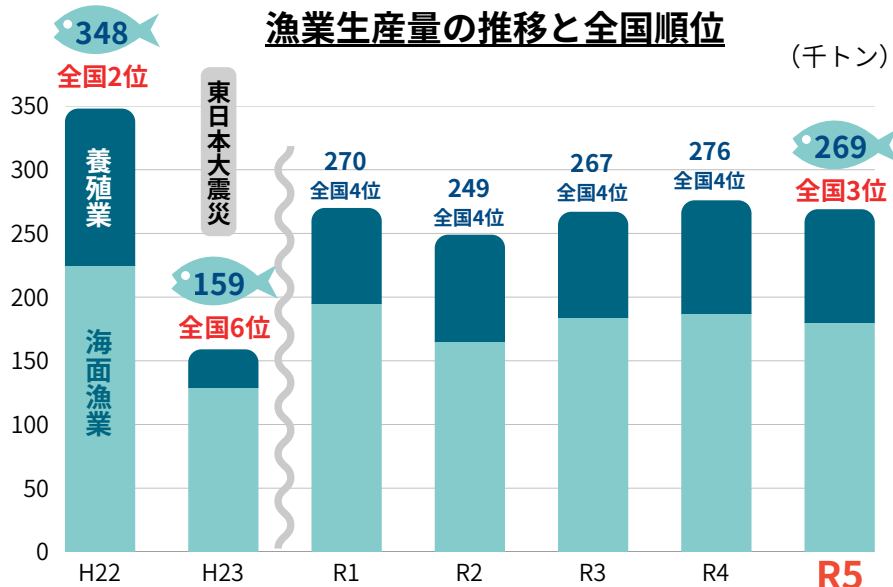
カギ養殖の温湯処理作業



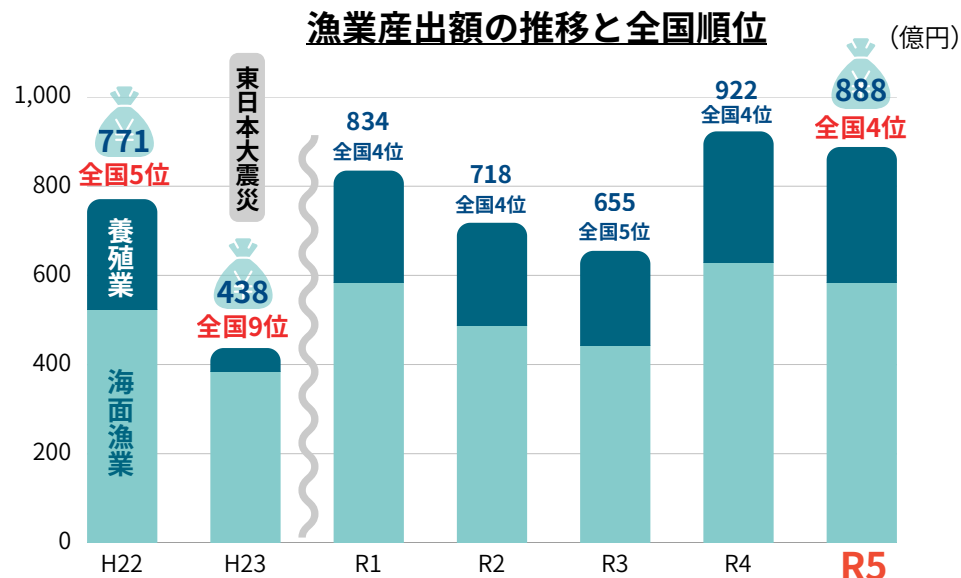
いか釣り漁船

多種多様な漁業・養殖業が行われる全国有数の水産県

漁業生産量の推移と全国順位



漁業産出額の推移と全国順位



出典：漁業産出額年報（農林水産省）

海面漁業生産量

かじき類、さめ類

全国1位

かつお、まぐろ類、さば類
おきあみ類、がざみ類

全国2位

さんま、いわし類、
うに類、たこ類、あわび類

全国3位

海面養殖業生産量

ぎんざけ、
わかめ類、ほや類

全国1位

かき類

全国2位

ほたてがい

全国3位

宮城県の水産業における主な動向②（水産流通）

産地魚市場の水揚状況

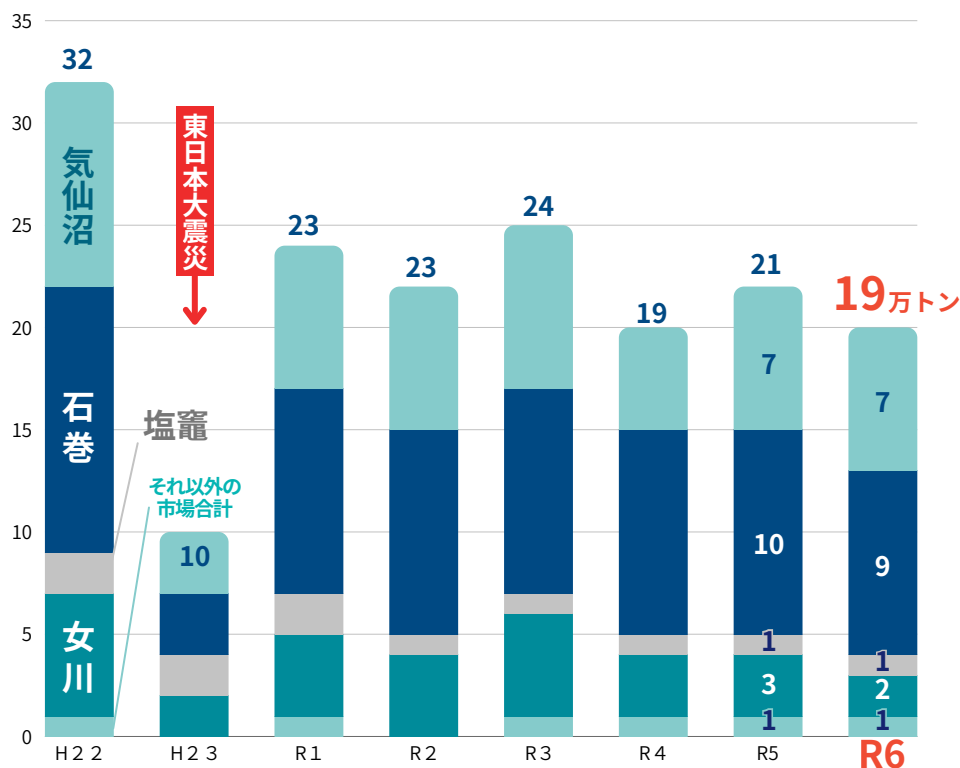
- 令和6年1月から12月までの水揚量：19万トン（対前年比97.4%）
- 主要4市場での水揚量は気仙沼市魚市場、塩竈市魚市場が前年より増加した一方で、石巻魚市場と女川魚市場は前年より減少した。
- 水揚金額：639億円（対前年比93.6%）
- 主要4市場での水揚金額は、すべての市場において前年より減少した。



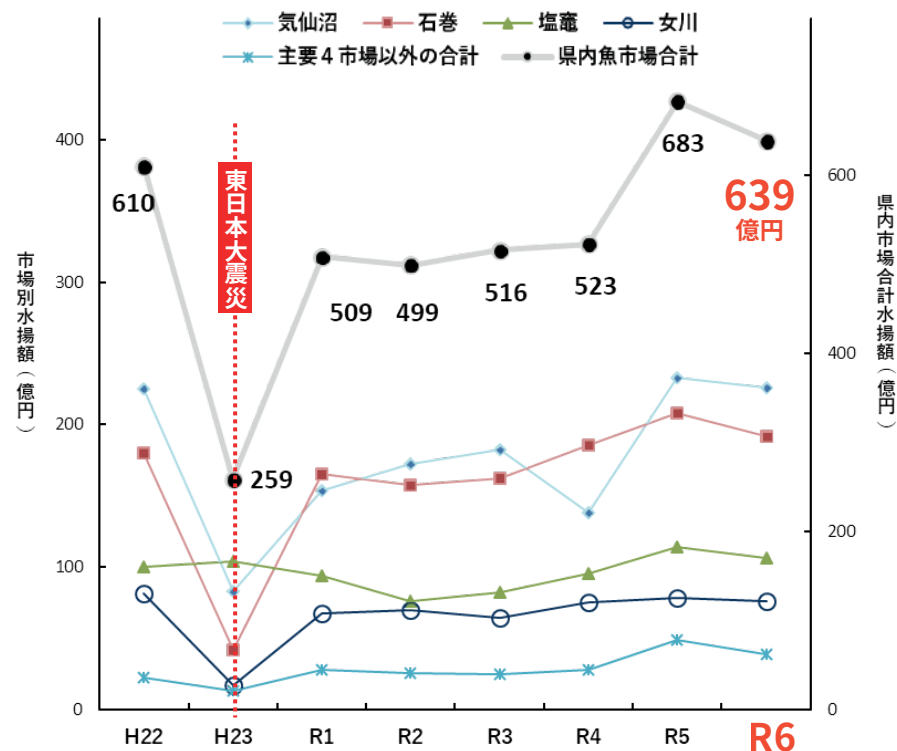
気仙沼市魚市場におけるカツオの水揚げ

水揚量の推移

(万トン)



水揚金額の推移



出典：宮城県「水産物水揚統計（属地統計）」

宮城県の水産業における主な動向③（水産加工業）

第49回宮城県水産加工品品評会の受賞品

水産加工品出荷額と水産加工業付加価値額

- 産地卸売市場の後背地には加工団地が形成されている。
- 本県水産加工業は地域経済を支える重要な産業として発展してきた。
- 水産加工品出荷額は、震災以降で初めて震災前の水準を上回った。
- 水産加工業付加価値額は、平成29年においては9割以上まで回復したものの、平成30年以降は原材料費や電気料金等の高騰、高止まりにより、震災前の7～8割台で推移している。



農林水産大臣賞
チーズdeわかめ：(有)ムラカミ

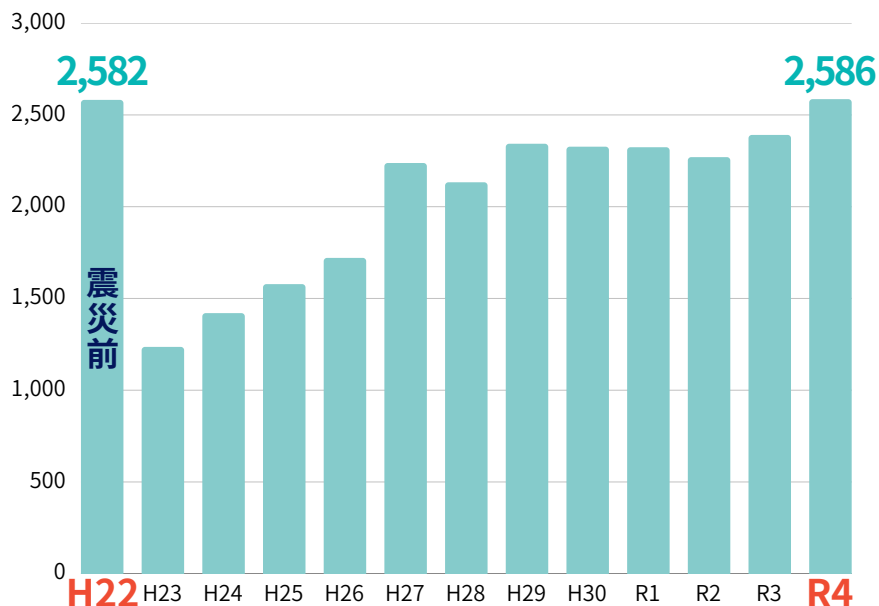


宮城県知事賞
まるごと赤貝：(有)まるしげ

水産加工品出荷額

回復率 **100.2%**

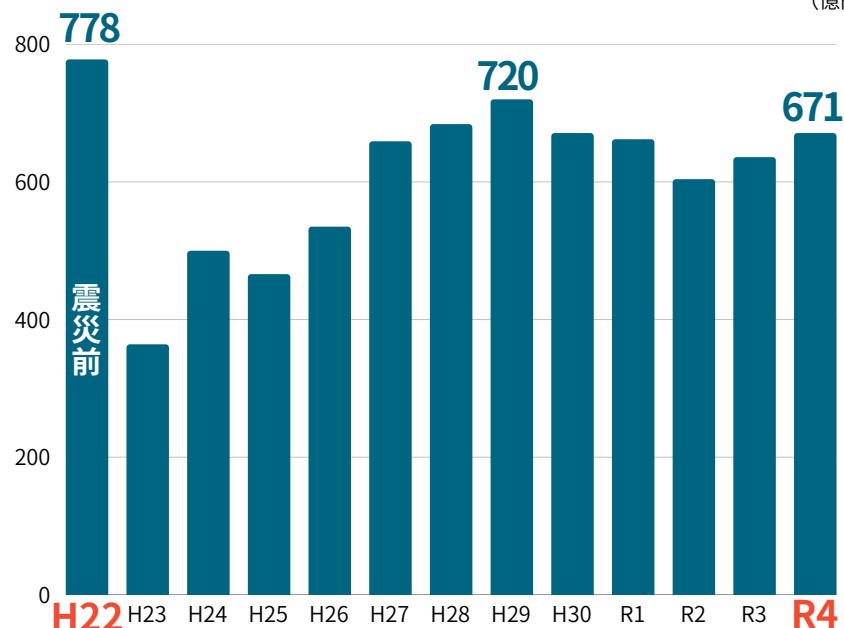
(億円)



水産加工業付加価値額

回復率 **86.2%**

(億円)



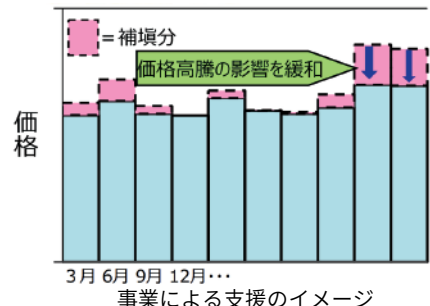
出典：経済構造実態調査（総務省・経済産業省）

基本方向1 持続的で収益性が高く、創造的な漁業・養殖生産体制の確立

主な施策の実施状況

①燃料価格激変緩和対策 【施策1・4ページ】

国外の港又は洋上において給油する遠洋漁船は、国による国内を対象とした燃油価格高騰対策の効果を受けられないことから、その影響を緩和するため、燃料費の一部を支援した。



③海水温上昇に対応した持続的養殖探索事業 【施策3・11ページ】

高水温対策として期待される三倍体マガキの現地養殖試験や、アカモクなど新規養殖種の養殖技術開発、本県の環境に適応したホタテガイ地種種苗の供給体制の構築支援を行った。



三倍体カキの養殖試験



アカモクの幼芽

②沿岸漁船漁業の不漁対策の取組 【施策2・7ページ】

海洋環境の変化により、冷水性魚種を中心に水揚量が減少しているため、漁業経営の安定化に向けて漁労設備や漁具の整備、試験操業の実施など、新たな操業体制への転換を支援した。



ケンサキイカ漁業の視察（福岡県）



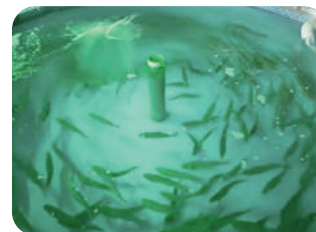
補助により購入した漁具（刺し網）

④陸上養殖 【施策3・13ページ】

令和6年4月に竣工した水産技術総合センター閉鎖循環式陸上養殖研究棟において、サケ類（ギンザケ、イワナ）の新しい養殖生産技術の開発を進めた。また、県内で閉鎖循環式陸上養殖に参入する事業者に対し、システム導入等を支援した。



閉鎖循環式陸上養殖研究棟の内観

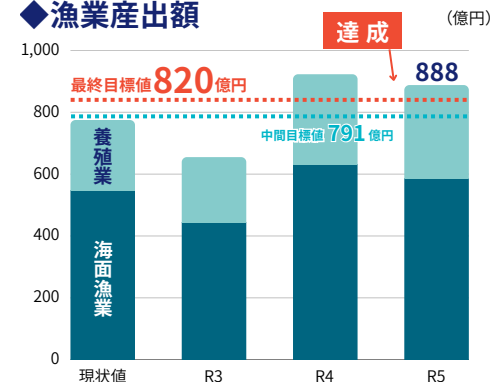


飼育中のギンザケ幼魚

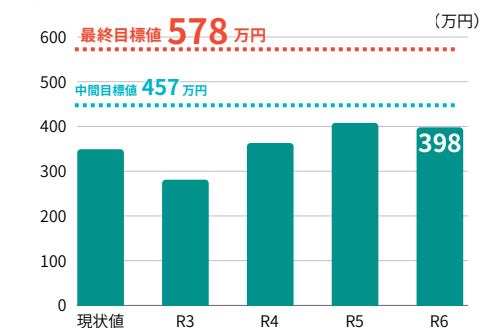
主な目標指標の達成状況

※最終目標値…R12時点 ※中間目標値…R7時点

◆漁業産出額



◆漁業所得（沿岸漁船漁業）



◆漁業所得（養殖業）



基本方向 2 社会・経済環境の変化に対応できる 流通・加工業の体制構築と水産物の販売力強化

主な施策の実施状況

①水産業電力コスト削減支援

【施策4・24ページ】

電力コストの削減により、県内水産加工業者等の経営安定化につながるよう、省エネルギー機器や自家消費型発電設備（太陽光発電等）などの導入に要する経費の一部を支援した。



更新した省エネ設備

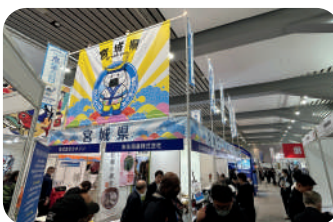


導入した太陽光発電設備

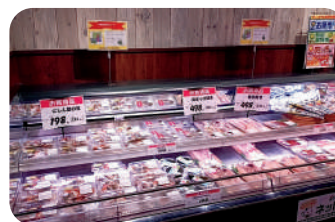
②水産加工業者等への支援

【施策5・28ページ】

都市圏で開催される大規模展示商談会への出展や、商品開発への支援、県外の量販店や飲食店におけるフェアの開催等により、水産加工業者の販路拡大を支援した。



大規模展示商談会への出展



量販店でのフェア開催

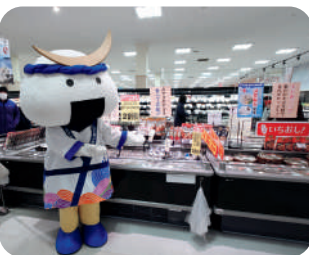
③「みやぎ水産の日」の取組

【施策6・32ページ】

県産水産物の認知度向上・消費拡大に向け「みやぎ水産の日（毎月第3水曜日）」を核として、漁業者・水産加工業者や量販店等と連携したPR活動を実施したほか、各種メディアを活用し広く情報発信した。



海の幸料理教室の開催



量販店と連携したPR活動

④専門家派遣による衛生管理の高度化支援

【施策7・35ページ】

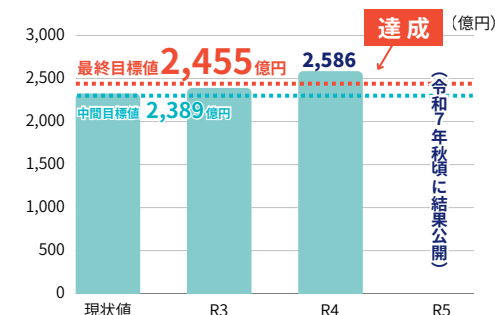
衛生管理に関する専門家を派遣して指導・助言を行うことで、水産加工業者に求められる一般的な衛生管理の取組のほか、HACCP認証取得に向けた対応について支援した。



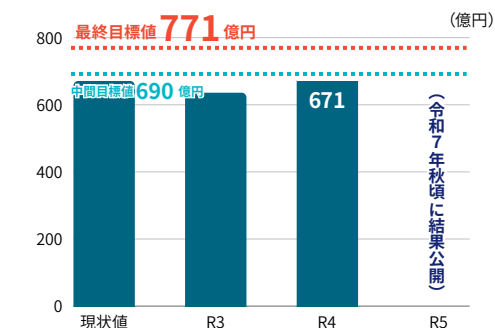
衛生管理に関する勉強会

主な目標指標の達成状況

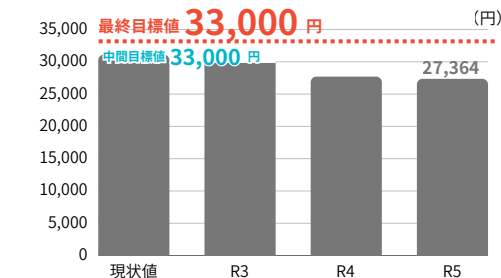
◆水産加工品出荷額



◆水産加工業付加価値額



◆世帯1人当たりの年間魚介類等の購入額



基本方向3 将来にわたって持続する活力ある漁業地域とそれを支える人づくり

主な施策の実施状況

① 漁港施設等の整備 【施策8・40ページ】

漁港施設の老朽化対策として機能保全工事を実施したほか、高波・波浪対策として、防波堤等の機能強化整備を実施した。また、漁港海岸防潮堤の整備を進め、令和6年度末までに145箇所中141箇所です工事が完了した。



機能強化事業 泊(歌津)漁港
(泊防波堤)



防潮堤の整備 (日門漁港海岸)
施工中

③ 「みやぎ漁師カレッジ」の取組 【施策10・45ページ】

沿岸漁業における新規就業者の確保・育成を図るため、短期・長期の「みやぎ漁師カレッジ」を開催した。長期研修の参加者13人のうち非漁家は8人で、そのうち6人が漁業に新規就業した。



漁師カレッジ広告バナー



漁師カレッジ長期研修閉講式

② 魚食普及の取組 【施策9・43ページ】

耳石ハンターの認定や、「お魚かたりべ」を講師とした出前講座、料理教室などを実施し、本県の水産物に対する理解や、料理に慣れ親しむ機会を創出し、さかなファンの育成と水産物消費の拡大を図った。



耳石ハンター養成講座



みやぎのお魚勉強会

④ 漁業者に対する金融支援 【施策11・48ページ】

漁業者の経営の高度化・円滑化等を図るため、漁業近代化資金等に利子補給を行ったほか、処理水の海洋放出や海水温の上昇による養殖物のへい死等により、経営に支障を来している漁業者に対し、漁業経営サポート資金により資金繰りを支援した。



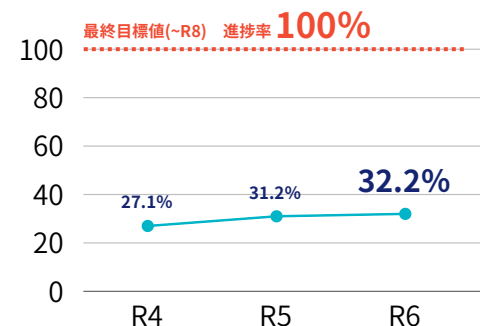
低気圧による被害 (全壊したノリ筏)



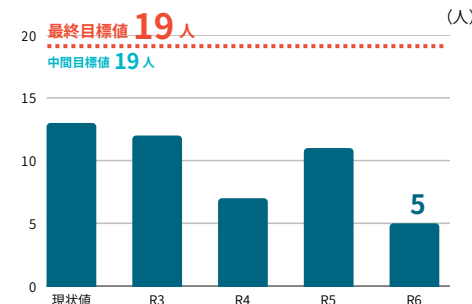
金融支援の
案内パンフレット

主な目標指標の達成状況

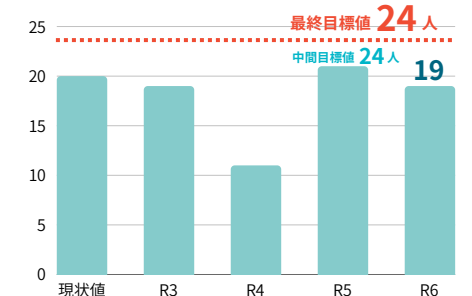
◆ 漁港施設の長寿命化対策



◆ 新規就業者数 (沿岸漁船漁業)



◆ 新規就業者数 (養殖業)



基本方向 4 海の豊かさを守り支える資源管理と 漁場・水域環境保全の推進

主な施策の実施状況

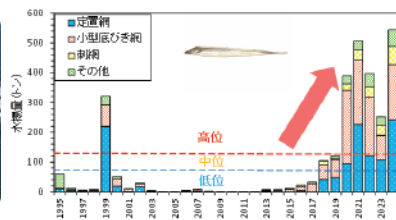
①海洋モニタリング及び資源評価

【施策12・58ページ、施策13・67ページ】

調査指導船や自動観測ブイによる水温等の観測データや、水揚統計情報などの海況・漁況に関する情報を関係機関等へ提供した。また、県の主要魚種について資源評価を実施し、資源動向の把握に努めた。



調査指導船「みやしお」



タチウオの水揚げ動向と資源水準

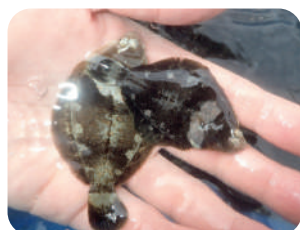
③栽培漁業の種苗放流支援

【施策13・62ページ】

国の種苗放流支援事業を活用し、県が生産したアワビ種苗の一部を漁業者へ無償配布したほか、サケ、ホシガレイ、ウニ、ナマコの種苗生産経費、親魚購入費用、飼育設備関係経費を支援した。



潜水によるアワビ種苗の放流

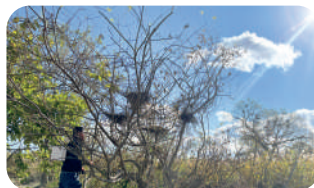


ホシガレイ種苗

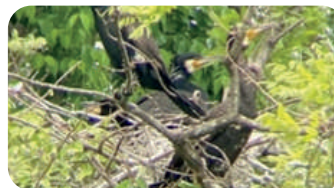
②カワウによる内水面漁業被害対策

【施策12・60ページ】

宮城県カワウ対策協議会を開催し、被害状況や対策等について情報共有・連携強化を図ったほか、カワウによる被害額を推定するため、胃内容物解析調査を実施した。また、内水面漁業被害の更なる軽減を図るため、カワウ適正管理指針(第Ⅱ期)を策定した。



木の上に作られたカワウの巣



カワウ

④宮城県藻場ビジョンの推進

【施策14・63ページ】

藻類着定基質(ブロック等)の投入による藻場造成工事の実施に向けて、環境調査や測量設計を実施したほか、漁業者等が実施するウニ除去やモニタリング調査など藻場保全活動に対する支援を行った。



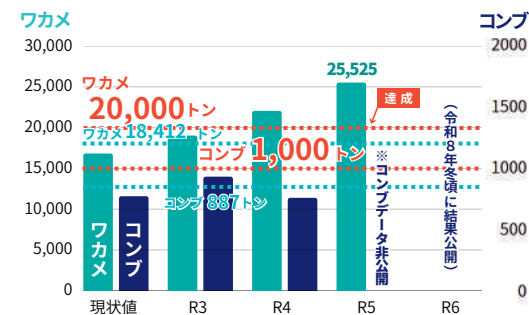
藻場造成のソフト対策
(ウニ除去)



漁業者らによる
藻場のモニタリング

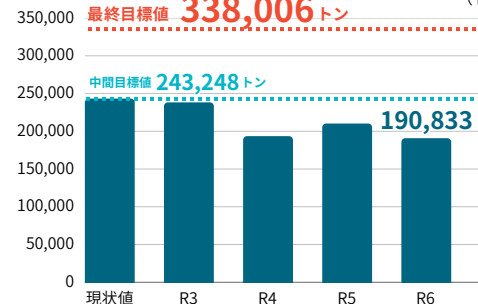
主な目標指標の達成状況

◆産業と環境の調和に貢献する海藻養殖の増産・藻場の造成及びCO₂削減対策



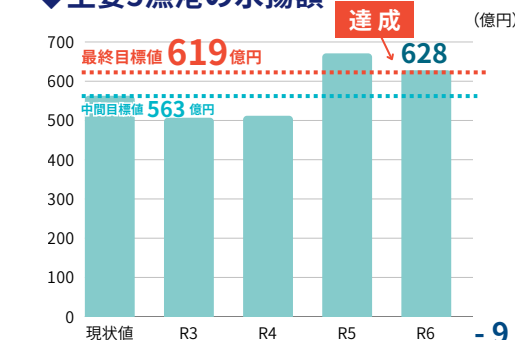
◆主要5漁港の水揚量

最終目標値 338,006トン



◆主要5漁港の水揚げ額

最終目標値 619億円



5つの重点プロジェクト①

①スマート水産業推進プロジェクト

- 養殖漁場における生産状況の把握や、自動観測による海洋環境把握、魚市場における魚種の自動選別等、ICTやAI等の先端技術の活用促進を図ったほか、「スマート水産業に関する勉強会」を開催し、国の施策や他県での先進事例について情報収集を行った。

②水産物輸出促進プロジェクト

- ホヤやカキを中心とした県産水産物の海外販路開拓の取組として、アメリカ、シンガポール、タイ、ベトナム、マレーシア、メキシコにおいて、飲食店や小売店でのフェアの開催や、海外バイヤーとの商談会などを実施した。
- 国際物流拠点化を目指している沖縄県において、日本全国の特産品などの海外販路拡大に資することを目的に開催される商談会「沖縄大交易会」に宮城県PRブースを設置し、県内水産加工事業者の商品展示や試食の提供、参加した県内企業への商談支援等を実施した。

③新しい漁村地域創出プロジェクト

- 水産業普及指導員が中心となり、漁業者等が実施する新規養殖種の試験、6次産業化等の取組等を支援したほか、漁村地域の中心となる漁業者の確保・育成を図るため、「みやぎ漁師カレッジ」長期研修や、新規漁業就業者向けの支援制度等について意見交換を行い、県の施策に反映した。



水温塩分自動観測ブイ



A I 自動魚種選別機（判別部分）



メキシコでの試食商談会



沖縄県での大交易会へ出展



調理専門学校と連携した未利用魚の料理教室



漁師カレッジで養殖作業を学ぶ受講生

5つの重点プロジェクト②

④ブルーカーボン推進プロジェクト

- 県内で養殖されるワカメを対象として二酸化炭素20.8トン分の「Jブルークレジット®」認証を取得した。
- 宮城県漁協網地島支所が、企業の支援・指導を受けてアラメ種苗の育成に関する試験を開始したほか、松島湾のアマモ場再生活動を行う団体と活動支援を希望する企業とのマッチングを行った。また、ブルーカーボンや森と海のつながり等について企業関係者に周知し、藻場造成等の活動を行う団体への支援に繋げることを目的とした「ブルーカーボンモニターツアー」を開催するなど、企業との連携促進を図った。



石巻地区でのホソメコンブ採苗・育成試験



網地島でのアラメ採苗・育成試験



ブルーカーボンモニターツアー



うみの杜水族館での親子向けイベント

⑤試験研究推進プロジェクト

- 水産関係試験研究計画に基づき、海洋や河川における環境モニタリング、科学的根拠に基づいた資源調査・資源評価、環境変化に対応する新たな養殖技術や水産加工技術の開発などを実施した。
- 令和6年4月に竣工した閉鎖循環式陸上養殖研究棟を活用し、飼育水の塩分濃度による成長比較など、ギンザケやイワナの種苗生産の安定化を図るための試験を実施した。
- 海洋環境の変化を見据え、新たな水産資源の持続的な活用を推進するため、増加傾向にある暖水性魚種の資源動向を把握するための調査を実施した。また、低・未利用魚種も含めた加工利用の促進に向けて、技術開発やその普及にも取り組んだ。



底びき網で漁獲されたチダイ



高温耐性ワカメの養殖試験



陸上養殖研究棟でのギンザケ養殖試験



アカエイを使った水産加工品の開発